

愛媛支部



4月16日、ひめ通研定期総会が開催されました。事業・会計等の審議は滞りなく進み、その他にも、裁判に関する情報提供や、健康問題、仲間どうしの支え合いの大切さについての提言などがありました。これから新たな気持ちでまた一年活動に励んでいこうという気持ちになりました。会員だけでなく、オブザーバーとして参加された未会員の方からも、「こういう活動があるのだと知って、それぞれの部で頑張っている様子に感心した」という感想をいただきました。

午後、「高齢聴覚障害者の暮らしに学ぶ～一人ひとりを大切に共に生きる～」というテーマで、淡路ふくろうの郷施設長の太矢暹氏による記念講演が行われました。日本でろう者がおかれていた厳しい状況や、世界で戦時中に障がい者が受けた苦しみなど、日頃の活動の中ではなかなか知る機会がないようなお話をうかがいました。私たちの活動は、人と人との関わりを大切に、その背景にあるものもしっかりと見つめ、受け止めていく必要があるのだと、改めて感じた一日でした。



香川支部



4月17日(日)に2016年度の総会が無事終わり、気持ちも新たに新年度がスタートしました。曾我部会長の挨拶、県聴障協会の近藤理事長の祝辞とともに、今回の熊本地震での被災者へのお悔やみとお見舞いが述べられ、香川における災害対策に話が進みました。東日本大震災から5年が経ち、記憶が薄れかけている今、「いつ起こるかもしれない」の「いつ」は、「明日」かもしれない、あらためて危機感を持たなくてはと思いました。



例年のことながら、今年度の総会も出席者が少なく、講演会を併催する等総会のあり方を検討することになりました。総会資料を見れば大まかな事はわかりますが、常任委員一同は、会員の皆さまに直に話を聞いていただきたい、皆さまの意見をお聞きしたいと思っています。総会は皆の総会です。来年はたくさんの会員に出席していただけるように、これからの1年間、しっかり活動していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



あさいと 徳島

4月17日、第34回とさ通研定期総会を開きました。会員数97名、総会出席者17名、委任状71名で総会は成立しました。

今年度は通常議題の他に、運営規則改正・運営委員の選出及び役員改選があり、それぞれ承認され終了しました。

午後からは、毎年恒例になっています(一社)高知県聴覚障害者協会理事の講演です。今回は事務局長の西村周二氏をお招きし、テンポよく力強く時にはユーモアたっぷりにご自分の半生と協会活動について語っていただきました。人前で話すのは苦手とおっしゃっていましたが、そんな様子は微塵も感じられませんでした。

組織運営での考え方をお聞きし、そして協会理事としての務めをこなされている事、私たちとさ通研会員にも思いを馳せていることを知り、共に歩んでいる事を改めて感じました。

西村氏の人柄通り柔らかい話し方でしたが、内に秘めた熱い思いを感じ、今年度も会員一人一人が様々な活動を元気に取り組んで行きたいと思いました。

高知支部



4月29日(金・祝)に第30回徳通研定期総会を開催しました。総会参加者は19人でしたが、新規会員を3人増やすことができました。報告事項ばかりでなく徳通研として何をするのかを明確にする場であるという意見も出され、総会資料を読んで、自分の気づきを一年間の支部の活動に活かしてもらえたらいいなと思いました。

午後からは、設立30周年記念式典と講演会を開催。全通研の石川芳郎会長を迎え、「今全通研ができること～徳通研30周年に期待すること～」と題して講演をしていただきました。式典には、行政関係者、聴覚障害者制度改革推進徳島本部の構成団体、四国ブロック役員、会員の方にもご出席を頂き、多くの方と共にお祝いをすることができました。石川会長からは、徳通研の今後の課題として、徳島の手話通訳に関わる歴史を文章に残していく取り組みをすることです。少しずつでも掘り起こしを進めていきたいと思っています。

徳島支部